

(翻訳) すべての人のためのアーカイブズ

アメリカ合衆国でさらに包摂的なアーカイブズを創る

Mason, Kären M. “Archives for All:
Creating More Inclusive Archives in the United States”

中村 百合子 (立教大学教授)

エレン ハモンド (立教大学特任教授)

こんばんは。今日ここにいられるのはなんと嬉しいことでしょう。今回、日本にはじめて来て、あなたたちの美しい国を訪れ、アーカイブズについての私の考えを共有させていただけることにわくわくしています。

今日は、アメリカ合衆国において、アーカイブズが過去の数十年の間にいかに発展してきたかについてお話します。アーカイブズは、今日、部分的に激しい変化を経験しています。これはデジタル・テクノロジーの発展が、記録の性質、記録が保存されアクセス可能な状態にされる方法を変えてきたからです。しかし、同じくらいドラマチックなのは、過去半世紀の間に起きた、アーカイブの中に誰が記録されるべきなのかについての私たちの思索にまつわる、アーカイブすることについての考え方の転換です。

私は、40年間、アーカイブズで働いてきた者としてお話をいたします。私はアメリカ合衆国の中西部の出身で、色々なアーカイブズで働き、経験を得て、そうして1992年に、アイオワ女性史アーカイブズのはじめてのキュレーター (学芸員) として雇われました。アイオワ女性史アーカイブズというのは、アイオワ大学の大きな研究図書館の中の小さな一部局です。

アメリカ合衆国の歴史とアーカイブズの発展

アメリカ合衆国には数千のアーカイブズがあります。国立公文書館は合衆国連邦政府の記録を保存しています。大学のアーカイブズはその組織の公式記録を保管し、キャンパスでの教育・社会生活を記録しています。地域や州の歴史関係団体や、図書館やミュージアム、教会、企業にもアーカイブズがあります。ほとんどの記録を義務的に受け入れる組織アーカイブズや政府のアーカイブズとは対照的に、アイオワ女性史アーカイブズのような、特別な主題のリポジトリ (記録保存庫) は、何を集めるかの決定に大きな余地があります。専門職について、人種や民族のグループについて、その他の主題について、記録を残すことができます。

歴史的に長い間、アーカイブズは、戦争、政治、そして「偉大な白人男性」の歴史を保存してきました。政府機関や政治家、ビジネスマン、軍のリーダーたちの記録を保管してきました。簡単に言えば、社会において権力をもっている人びと、つまり、豊かな人たち、有力な人たち、エリートたちの記録を残してきたのです。

1960年代、70年代に、アメリカ社会を揺さぶった抵抗運動とともに、それが変化しはじめました。公民権、ブラック・パワー [と呼ばれる黒人の運動]、女性解放、その他の社会運動が、学术界に波及しました。教科書から抜け落ちていたグループが、彼らの歴史を認める要求をしはじめました。「ボトムアップからの歴史」という、市井の人びとと彼らの日常生活を検討した新しい社会史が立ちあがりました。しかし、この新しい歴史は情報源が無くては書かれることはありませんでした。黒人やアメリカン・インディアン、または女性たちについての記録を探しに研究者たちがアーカイブズに来たために、アーキビストたちは歴史的

に重要な記録とはどれかについての自分たちの信念を考え直すことを強いられました。そうしたグループを網羅するべく、時間をかけて、彼らは収集方針や、所蔵資料についての目録作成や記述の方法を見直しました。

新しくなったアーカイブズは、移民や労働者階級といった新しいトピックに力を入れて取り組みました。時には、組織の内部から、アーカイブズに記録されてこなかった主題やグループを研究する教員の一人に刺激を受けて、推進力を得ました。また時には、社会から周縁的なところに置かれていると感じているグループが、自分たちで管理のできる独自のアーカイブズを創ることを決めました。

1970年代まで、アメリカ合衆国では女性史に焦点をあてたアーカイブズはわずかしかありませんでした。しかし、1989年までに、米国アーキビスト協会の女性史コレクション・ラウンドテーブルを支えるのに十分な、女性関係コレクションに関わって働くアーキビストが存在するようになりました。アイオワ女性史アーカイブズは、その焦点を州全体としているという点で特殊です。もう一つだけ、ネバダ州が、州全体を網羅する女性史アーカイブズをもっています。

アイオワ女性史アーカイブズ

アイオワ女性史アーカイブズは、ルイズ・ナウンという女性が、女性参政権運動に関する歴史を書くために研究資料を見つけられなかったことから生まれました。彼女は、投票権を勝ち取ろうとしたアイオワの女性の参政権運動についての情報を見つけるために、東海岸の、[ハーバード大学にある] アメリカ女性史を専門とするシュレージンガー図書館まで、旅をしなければなりません。ルイズ・ナウンは、アイオワの女性たちの経験が残されることを確実にする唯一の方法は、アイオワの女性たちに焦点をあてたアーカイブズを設立することだと確信するようになりました。

そこで彼女は、友人の、アイオワ大学のメアリー・ルイズ・スミスに話をもちかけ、資金調達さえ確実にされるなら、このアーカイブズを大学内に置くということに合意を得ました。1991年にルイズ・ナウンは自身の個人コレクションから一つの絵、フリーダ・カーロの「後れ毛のある自画像 (Self Portrait with Loose Hair)」を売って、アーカイブズのために150万ドルの寄付金を捻出しました。[Fig. 1「メアリー・ルイズ・スミスとルイズ・ナウン、アイオワ女性史アーカイブズの創業者。」参照] [Fig. 2「フリーダ・カーロの「後れ毛のある自画像」が、アイオワ女性史アーカイブズに資金を提供するために売られた。」参照]

アイオワ女性史アーカイブズは、1992年に、アイオワシティのアイオワ大学の図書館本館内に開館しました。特殊コレクションの部局の一部ですが、独自の閲覧室をもっています。ここで研究者たちはそのコレクションを使い、私たちは授業をしたりイベントを催したりするのですが、この別室は、女性たちの経験が価値を見出されて残されているという物理的な、また象徴的な空間と言えます。大きな研究図書館の一部分ではありますが、多くの意味で、アイオワ女性史アーカイブズは一つの小さなアーカイブズのようにも機能しています。三人しか職員はいませんが、学生アルバイトやボランティアがいます。

アイオワ女性史アーカイブズ (IWA) の使命

このアーカイブズの使命は、個人の所有する文書を集めることによって、アイオワの女性たちの歴史を残すことです。手紙、日記、写真、スクラップブック、著作、視聴覚資料、ま

た組織の記録など、女性の人生を記録したものを集めています。1992年に初代のキュレーターとして私が雇われた時、収集の範囲をどのように定義するのは私の判断によりました。私はアイオワの女性について広い範囲から文書を探しました。多様な人種、階級、民族、職業、宗教に帰属する女性たちを視野に入れました。[Fig. 3「アイオワ女性史アーカイブズの閲覧室で調査をしている大学生たち。」参照]

時が経ち、棚が、一つのフォルダーから何百箱に至るまで、サイズの異なるすばらしいコレクションで埋まりました。しかし、アイオワの人口のわずか4%しか占めていないアフリカ系アメリカ人といった、目立たないグループの歴史を集めるには、それに焦点をあてたプロジェクトが必要だということが明らかになってきました。助成金を得て、アイオワのアフリカ系アメリカ人女性のコレクションを集めるべく、3年の有期雇用のアーキビストを雇いました。

これらのコレクションは豊かで多様です。例えば、ヴァージニア・ハーパーの文書は、アイオワの小さな町で自ら行った公民権のための積極的な行動に焦点をあてており、その中には、1960年代にマイノリティを雇っていない地元の企業に対して行ったボイコット運動が含まれています。

彼女の文書にはまた、彼女のおばであるローザ・ダンドリッジ・プライアが書いた回想録が含まれています。プライアの両親は、南北戦争中の1863年の奴隷解放の後に、[奴隷制を禁止した]自由州であったアイオワに移り住みました。ノートのページに赤いインクで書かれた彼女の回想録は、彼女の父親が小さな農園の奴隷であった人生について彼女に語った物語を詳しく書いたものです。

アイオワ女性史アーカイブズはまた、田舎の女性、ラテン系、ユダヤ系女性の歴史を収集するプロジェクトを行ってきました。そうしたグループは、アイオワの資料保存においては、十分に取り扱われていません。それぞれのプロジェクトのために、私たちは州内を回り、人びとにもっている文書を寄贈するように呼びかけました。これらのプロジェクトは多様なコレクションとしてできあがり、研究者、学生、そして一般の人たちに利用されています。私たちのコレクションの手引はオンラインで入手可能ですので、誰でもこれらの資料について知ることができます。複数の重点コレクション形成の取り組みを通して、私たちの所蔵資料が多様なものとなるようにという熟考された努力があって、アイオワ女性史アーカイブズは独自の存在となっています。私たちのコレクションの深さや広さによって、このアーカイブズは知られた存在になっており、世界中から研究者を惹きつけています。

私たちはアイオワ女性に焦点をあてていますが、アーカイブズにあるすべてがアイオワについて、もしくは女性についてというわけではありません。

エブリン・コリーが作ったスクラップブックは、アメリカの歴史におけるもっとも恥ずべきエピソードの一つを記録しています。第2次世界大戦中、12万人の日系アメリカ人が西海岸の彼らの家から強制的に移動させられ、戦争の間、収容所に送られました。

コリーのスクラップブックには、ディック・ハヤシという、両親が収容所に収容された日系アメリカ人の軍人が彼女に宛てて書いた手紙が含まれています。彼の手紙は、彼の家族の自由を取りあげ、暮らしを奪った国家に仕えることについて彼が感じたためらいや怒りが表現されています。[Fig. 4, Fig. 5「ディック・ハヤシの1942年の写真、ハヤシがエブリン・コリーに第二次世界大戦中に書いた手紙。(エブリン・コリーコレクション、アイオワ女性史アーカイブズ)」]

別のコレクションは、戦後の日本について記録しています。ローラ・モーラー・ズックと

いうジャーナリストは、1946年から1951年に東京で編集者として働いていました。彼女の夫はここ日本でアメリカ赤十字社の責任者でした。彼女は、日本の各地、各場面の写真を家族に送り、それぞれの写真についての詳細な説明をつけた手紙を書いていました。それに彼女は、戦後に住まいに変えられた、戦時中の防空壕について書いています。[Fig. 6「戦後日本で間に合わせに建てられた家。ローラ・モーラー・ズックが1948年に撮った写真（ローラ・モーラー・ズック文書、アイオワ女性史アーカイブズ）」参照]

興味深いことに、二つのコレクションには、戦後の日本の田舎の街頭紙芝居屋の写真があります。女性と子どもたちに囲まれた紙芝居屋のこの写真は、1952年ころにアンナ・マリー・ミッチェルという、1950年から1980年代に日本で働いたルター派の宣教師によって撮影されました。[Fig. 7「1950年代、子どもたちにお話をして絵を見せる“紙芝居”の男性（アンナ・マリーミッチェル文書、アイオワ女性史アーカイブズ）」参照]

最後に、オードリー・ロックウッドとキトレッジ・チェリーという、1975年にアイオワ大学の学生同士で出会ったレズビアンのカップルの文書を所蔵しています。1980年代のはじめに東京に住んでいる間に、彼らは、『The Feminist Forum』という国際的な女性運動についてのニュースレターを編集していました。

キトレッジ・チェリーは聖職者で、宗教的なテーマについて多くの本を著していますが、次の一冊はみなさんが関心をもたれるかもしれません。1987年に東京で出版された、Womansword: What Japanese Words Say About Womenは、1990年に日本語に翻訳されています『[女性の言葉:]日本語は女をどう表現してきたか』。[Fig. 8, Fig. 9「キトレッジ・チェリーによる本（チェリーとロックウッド文書、アイオワ女性史アーカイブズ）」参照]

利用

ここで、私たちのアーカイブズがどのように使われているかについての議論に移りたいと思います。公的な機関として、アーカイブズは、私たちのコレクションを使いたいすべての人に開かれています。利用者のほとんどは、レポートを書く大学生、学位論文の研究をしている大学院生、または研究者や著述家です。ジャーナリストは現代の出来事についての歴史的な調査のためにアーカイブズを使いますし、小説家はインスピレーションや歴史的な背景情報を求めてコレクションを使います。

アイオワ女性史アーカイブズは、アイオワという州について、そしてその州のための情報源です。ミュージアムが展示のために資料を借りていきます。このアーカイブズに家族についての文書がある人たちは、それを見にやってきます。児童・生徒も訪れます。

この女子のグループは、2017年1月のアメリカ女性たちの[全米の都市での]行進のプラカード、帽子、写真の展示を見に来ました。展示を見た後で、女子たちは、警察官、バスケットボール選手その他の職業に就くのにあった障壁を打ち破ったアイオワの女性たちについて学びました。女子たちは、その女性たちの絵を描いて、四角いキルトとなるように布に貼りつけました。この女子たちに女性史を教えるのに、すばらしい方法でした。[Fig. 10「2016年1月の女性たちの更新のプラカードや写真の展示を見る女子たち。」参照]

多くの人たちが、住んでいるところが遠すぎるので、アーカイブズに来られません。そこで私たちは、アーカイブズを、展示をとおして彼らのもとに届けています。1世紀以上、アイオワの女子たちは、5人ではなくて6人の選手が一つのチームのメンバーとなる、変わったバスケットボールをしていました。スポーツは男性のものだと考えられていた時代に、複

数の小さな町は女子のバスケットボールチームの熱心なサポーターでした。この愛されていたスポーツは 1993 年に終わってしまいましたので、私たちは、「6 対 6 バスケットボールとアイオワにおける女子と女性のスポーツの遺産」という展示でそれを偲ぶことにしました。

その展示は、2018 年の間、アイオワの各地を回っています。州内に散らばる、見てくれるだろう人たちに届けるためにその展示を活用しています。それぞれの会場で、女子のバスケットボールの歴史を語り、人びとが私たちと話を共有してくれるよう招いています。私たちは写真をスキャンし、文書を受け入れており、それらは大学生たちが作成を手伝ってくれた女性のスポーツの歴史についてのウェブサイトの一部となっていきます。[Fig. 11 「2019 年にアイオワを回った巡回展のパネル。」 参照]

ラテン系女性プロジェクト

最後の数分で、アイオワのラテン系の人びとの歴史を集めようという私たちの努力についてお話ししたいと思います。ラテン系女性プロジェクトを 2003 年にはじめた時、アイオワのラテン系の人びとの歴史について、アイオワのアーカイブズにはまったくと言っていいほど情報がありませんでした。メキシコ系アメリカ人は 1900 年よりも前から住んでいるにも関わらずです。3 年以上かけて、私たちは 100 以上のオーラル・ヒストリーのインタビューを行い、写真、手紙、スクラップブック、回想録その他の情報源を受け入れました。

このプロジェクトは、学内のラテン系の学生たちに大きな影響を与えてきています。彼らのほとんどは、ラテン系の人びとに言及していないアメリカ史を教えられてきました。このアーカイブのコレクションに反映された彼らの家族の経験を見ることは、感動的であり、力づけられることです。

アイオワ女性史アーカイブズでは、これらのコレクションに光を当てるべく、さまざまな公開イベントを実施してきました。このオープン・ハウスのようなプログラムを通して、コミュニティの人たちは、アーカイブに収められた記録の一部として自分たちの歴史を見る機会を得て、もう記憶から消し去ることはありません。女性たちは、自分たちの家族の文書の展示を見ています。私たちはまた、アイオワのラテン系の人びとの歴史についての巡回展示を作成し、それはコミュニティ・センターやお祭り、全国的な規模の会議、学校、州都の議事堂に展示されてきました。[Fig. 12 「アイオワ女性史アーカイブズの 2016 年のオープンハウス」 参照]

「移住は美しい (Migration is Beautiful)」という私たちのウェブサイトは、ラテン系女性プロジェクトを通して集められた文書や物語を、いつでもどこでも見ることができるようになっています。スキャンされた写真や文書、オーラル・ヒストリーからのエピソード、19 世紀からのアイオワのラテン系の人口の増加を示す統計データと結びつけられた地図などがそれには含まれています。その歴史についての短いエッセイが、そうしたスキャンされた文書の背景を説明しています。今年、ラテン系の人びとが住む三つの学区が、このウェブサイトを使うカリキュラムを策定しています。[Fig. 13 「移住は美しいのウェブサイトはアイオワのラテン系女性や彼女たちのコミュニティの写真、文書、物語に光を当てている。 <http://migration.lib.uiowa.edu/>」 参照]

デジタルの世界

「移住は美しい」というこのウェブサイトは、デジタル・テクノロジーの力を示す良い例です。アーカイブズが届けられる範囲を広げ、インターネットにアクセスできる誰でもがこ

の資料を使うことを可能にしています。また、今も個人が所有する文書を電子化したものもいくらか含まれています。「移住は美しい」のようなウェブサイトを通して、デジタル・テクノロジーは歴史の語りにおいてしばしば欠けている声を包含した、ニュアンスのある、包摂的な歴史を残すことを進めます。

同時に、デジタル・テクノロジーは、現在も作られている情報資源の種類を大きく変化させてきています。私たちは、ちょっと変な時代にいます。情報に圧倒されていますが、伝統的に歴史家が頼ってきた、手紙、日記、スクラップブック、その他の紙の記録といった文書類がどんどん少なくなってきました。人びとは時々、物理的に存在するアーカイブズは電子的な文書館にとって代わられるのではないかと考えます。しかし、伝統的なリポジトリは無くなりません。物理的に存在する文書やモノによる、触って認識できる、直感的な経験はいつでも必要性があります。アーカイブズの大量の資料のすべてがデジタルで入手可能になるまでには、まだしばらく時間がかかります。

結論

私たちは、ラテン系女性プロジェクトと、アフリカン・アメリカ人や、田舎、ユダヤ系の女性たちのプロジェクトを立ちあげ、アイオワ女性史アーカイブズの所蔵資料に多様性をもたせ、私たちの州とその人びとの歴史がさらに包摂的になるようにしてきました。アーキビストたちでこの仕事が重要だと思うようになっている人は増えてきていますが、この種の仕事をするための資源（もしくは方向性）をもつアーカイブズ等は少ないです。同時に、いくつかのグループは、自分たちの歴史を自分たちで残すことに取り組むこととし、主流派のアーカイブズに記録を寄付するよりも、自分たちのコミュニティ内でもっていようとしています。その結果できる“コミュニティのアーカイブ”は、コミュニティ・センター、教会の地下、店内に置かれたミュージアムといったところにある物理的な空間かもしれません。もしくは、ヴァーチャルのオンライン・アーカイブズかもしれません。ともに、それらは「アーカイブズ」の定義を拡げています。

私は、アーカイブに誰が記録されるべきなのかについての私たちの考え方の転換について話すことから始めました。アーカイブズは、異なる時代や場所を覗くための窓です。しかしそれらは、さらに公正で平等な社会を促進するための手だてでもあります。アイオワ女性史アーカイブズでの私たちのモットーは「すべての女性が物語をもっている、すべての女子が意見をもっている」です。アーキビストとしての私たちの挑戦は、私たちのアーカイブズで欠けている声に気づくことであり、その保存を、私たちの保存庫内でも、アーカイブズが取り得るどんな新しい形でも、促すことです。そうしてこそ、こうした物語は語られ、聞かれ、保存され、すべての人びとが歴史に自分たちの姿を見つけることになるでしょう。

ありがとうございました。

(アイオワ女性史アーカイブズの HP は原文末尾を参照)

謝辞

翻訳にあたって、アーカイブズの専門用語について、古賀崇氏（天理大学教授）よりご指導をいただきました。ここに記して感謝を申し上げます。